

### 【3】福石地区ってこんなまちです

#### (福石地区の歴史)

天神山から佐世保港にかけての緩やかな傾斜地と江戸時代に干拓された平地に広がるのが福石地区です。

明治19年の佐世保軍港設置以後、大正、昭和と軍港の発展と共に急激に開発された地域で、多くの旧海軍の施設が集まっていました。そのうち倉島や前畑弾薬庫一帯の施設は、そのまま海上自衛隊や米海軍に使われ続けています。また、県、市、民間に払い下げられた施設や用地は下水処理場、ハローワーク、競輪場、大黒団地、福石中学校などに姿を変えています。

福石地区は日宇村福石免と呼ばれていましたが、昭和2年、佐世保市に編入し、日宇福石免となりました。昭和13年の新町名施行により大和、大宮、東山、大黒の4町が生まれましたが、干尽、前畑の2町は旧海軍用地だった関係で昭和26年に町となりました。前畑町は大部分が米軍基地で、市内でも人口の少ない町のひとつです。ちなみに佐世保港内の弁天島は前畑町です。

天神山の中腹からの傾斜地には人家が密集し、その一面に東山海軍墓地・東公園、福石小学校があります。交通の便も良く、住みやすい環境なので、定着度は高いですが、車の入らない場所や階段や坂のきつい場所には空家が増えつつあります。

また、近年は少子高齢化が進んでおり、高齢者に対する目配り・気配りが今まで以上に必要になってきている他、地域住民の一層の連携が期待されています。

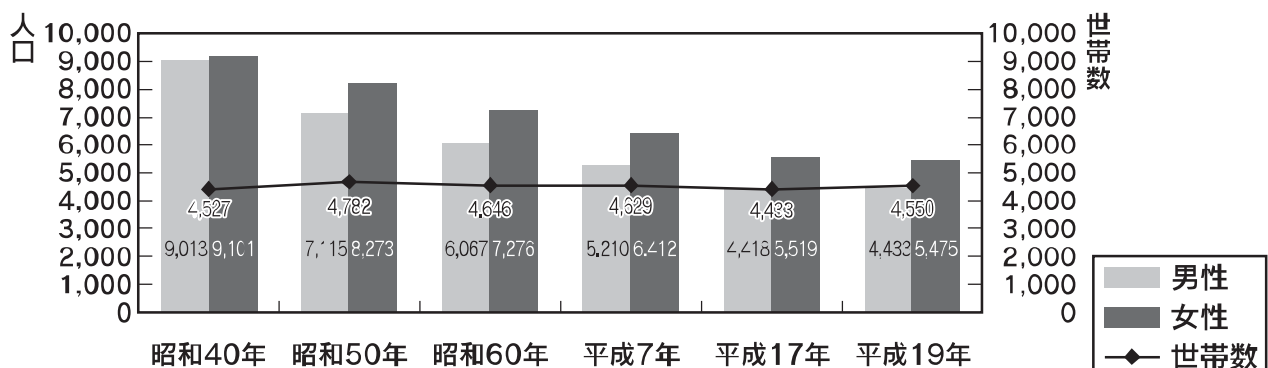


#### ★福石地区って……どのあたりをいうの？

現在、福石地区と呼ばれる範囲は、次のとおりです。

町名	大宮町、東山町、前畑町、干尽町、大黒町(大黒団地)、大和町(西大和)
----	------------------------------------

#### (福石地区の人口推移) ※いずれも10月1日時点の統計資料



※大黒町、大和町は町全体での数字で統計を出しています。

## （福石地区“わがまち自慢”）

福石地区には“自慢”がいっぱい！その一部を紹介します。

### 大宮公園の夏祭り

もともとは福栄会協同組合が行っていた行事で、途絶えていた時期がありましたが、有志の呼びかけで復活して20年余になります。商店街と地域の公民館の方々の協力を得て、盆踊りを中心に、毎年にぎやかに繰り広げられています。

最近では、中学校の生徒、先生、保護者の方々にもスタッフとして参加をいただき、貴重な行事になっています。地元の夏の風物詩になっており、大人にとっても子どもにとっても楽しい思い出の1ページになっています。今後も地域の皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思ひます。



### 佐世保東山海軍墓地（東公園）

港を見下ろす天神山の東斜面に、佐世保東山海軍墓地・東公園があります。この地には、明治22年来、佐世保鎮守府管内（九州・四国・沖縄）の国に殉じた17万6千余柱、移転された陸軍墓碑・海上自衛隊佐世保警備区で殉職した133柱の御霊が祀られています。

合葬碑62基、個人碑437基、各碑毎の慰霊祭・秋の戦没者追悼式・夏の墓地保存会によるお盆供養など、平和を祈念した行事が執り行われます。

日本有数の聖地として園内には供花の絶えることがありません。郊外からのアクセスも良く、四季折々、特に桜の頃には、福石近隣はもとより遠方からも多くの方が訪れます。



### 大宮町商店街（福栄会）

戦後生まれた市場を中心に、地域住民の台所として栄えてきた、佐世保でも3本の指に入る商店街です。

昔からあるシール事業はスタンプ事業に進化し、ファミリースタンプとして今ではなくてはならない楽しみとなっています。品揃えも豊富で親しみやすく、店主と買い物客とのやりとりにもぎやかです。

地元の皆様に、親しまれる商店街であるように、今後も努めていきます。



### 福石小学校

福石小学校は大正13年創立の歴史ある学校です。伝統があり地域の文化シンボルとしての評価を受け、地域と共にある学校として発展し続けています。

長い歴史の間には、戦火により、学校の建物が全焼し、悲しみを体感した職員・卒業生・保護者・地域が、そこから未来を信じて這い上がったという歴史の1ページも持っています。当時、日米友好人形「メリーちゃん」が贈られていましたが、戦禍の中で失われてしまいました。

ゼロからの復活を遂げ、平和のありがたみを感じながら、地域と共に人づくりに邁進する学校として歩んでいます。

